

国際物流シンポジウム2010～先手必勝！関西が日本をリードする～ 開催結果概要報告

○概要

全国に先駆けて関西で設置されてから5年を迎えた「国際物流戦略チーム(以下「戦略チーム」)」、これまでの取組を総括した上で、今後必要とされる国際物流戦略の方向性について議論を行い、その中で産学官・陸海空が連携した戦略チームとして果たすべき役割、新たな方向性を考えていくことを目的としたシンポジウムを開催しました。

○主催：国際物流戦略チーム

(事務局；関西経済連合会、国土交通省近畿地方整備局・近畿運輸局・大阪航空局)

○日時・場所

平成22年10月15日(金)14:00～16:30 ホテルニューオータニ大阪 2階 鳳凰の間

○出席者

聴講者 約550名
プレス 18社

○プログラム

1. 基調講演：

「関西物流戦略チームの歩みー物流戦略の必要性と背景ー」

黒田 勝彦 国際物流戦略チーム幹事会座長

神戸市立工業高等専門学校校長・神戸大名誉教授

2. パネルディスカッション：

「先手必勝！関西が日本をリードする」

パネリスト（50音順）

黒田 勝彦 神戸市立工業高等専門学校校長

谷口 博昭 国土交通省顧問

宮本 和明 東京都市大学教授

村山 敦 関西経済連合会広域基盤整備委員会物流担当委員長

矢田 立郎 神戸市長

コーディネーター

大峯 伸之 朝日新聞 論説委員



黒田座長による基調講演



パネルディスカッション風景



コーディネーター 大峯氏 1

国際物流シンポジウム2010～先手必勝！関西が日本をリードする～ 開催結果概要報告

■シンポジウムの状況

○下妻本部長挨拶

国の社会基盤整備における選択と集中の方針が示される中、関空や阪神港を国際物流の拠点として明確に位置づけたことは、戦略チームとして素直に喜ぶたい。

これから改めて考えるべき課題として①港湾、空港を活かす道路ネットワークの重点的な整備②アジアとの共生③地域戦略が挙げられる。国際物流機能の競争力強化に向け、闊達な議論を期待。



○基調講演 黒田座長

国際物流を取り巻く状況として、日本の現状、近隣諸国の戦略、今後予測される変化について紹介

○パネルディスカッションにおける主な発言

- ・村山 関経連物流担当委員長 : 国際物流の課題解決は、民間のビジネス視点で解決策を見出していく必要がある。インフラは公設民営であるべきで、かつ、広域的な視点から整備・運営の判断を行うことが重要。関空の機能は国際的にも高いレベルであり、バランスシート改善による国際拠点空港としての再生を方針として明確にしたことは、画期的な進展。



- ・矢田 神戸市長 : 阪神港は国際コンテナ戦略港湾の指定を受けたが、これがラストチャンス。あとは早急且つ着実に実行あるのみ。民営化する埠頭公社には民間からの出資、更には民間人材の登用を早期に実施していきたい。阪神港の国際競争力強化に向け国家戦略として国策としての支援を得ながら官民一丸になって取り組む。



- ・宮本教授 : PFIはふぐ料理に例えられ、リスクを的確に把握した上でプロによるマネジメントがなされれば大きな効果を発揮する。PFIはあくまで公共サービスを調達する手段の一つであり、民間金融の本来の仕組みを活用することにより、インフラの魅力を高めつつ、リスクに対する官民の役割分担を明確にして取り組むことがポイント。



- ・谷口顧問 : 関西の再生は日本のため、首都圏のためにも必要であり、政官挙げて一枚岩で盛り上げていくべき。物流拠点である阪神港、関空のみならず、ネットワークを形成する道路整備も重要。PPPはまさにパートナーシップがポイントで、国は民に任せきりでなく、セーフティネットの構築などの役割を果たさなければならない。国と地方の関係についてもどういう形のパートナーシップを築いていくかが重要。



- ・黒田座長 : 関西の浮上には関空・阪神港の浮上は欠かせない。今回が最後のチャンスという思いで、港湾では民間企業からの出資と共に、民間経営のマインドを出せるかがポイント。国際物流を取り巻く世界の潮流を把握し、先手を打っていくことが必要で、関西に国際戦略のシンクタンク機能を設置すべき。

